

「応用」「発展」の取組を今後進めていくための 具体例など

熊野川減災協議会

応用・発展の取組一覧

「応用・発展」の取組のうち、**全機関が対象**となる取組事例を共有。(オブザーバーを除く)

取組No.	全機関対象	取組内容
2	-	タイムラインの検証と改善及び各機関のタイムラインの共有
3	-	大規模水害に対する広域的な避難対策の検証
4	-	水害リスク情報の充実(水害リスク空白域の解消、内外水一体・多段階型浸水想定等)・周知
5	-	水害リスク情報を活用した水害ハザードマップの作成(更新)・周知
11	○	コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの普及・促進
12	○	SNS等を活用したリスクコミュニケーションの検討
13	-	感染症拡大防止等を考慮した避難施設(民間施設等を活用した緊急的な避難先を含む)の充実
14	-	感染症拡大防止を考慮した防災行動計画や避難計画等の更新と訓練の実施
17	○	各管理者の情報を効果的に配信できる仕組みの必要性の確認と構築
18	○	雨量・水位・ダム放流情報等の一元化の検討
19	-	ダム放流による水位変動見込み等の情報提供の検討
20	-	洪水予測の周知・活用と予測技術の向上(水位予測、氾濫予測、長時間予測等)
21	-	鉄道事業者との連携による社会経済被害最小化に繋げる検討及び実践
22	○	メディアとの連携による避難に資する河川情報提供の検討及び実践
23	○	リスク情報や治水事業効果の見える化
31	-	大規模水災害発生時の庁舎等の機能維持及び重要資機材への影響の確認と有効な対策の実施
33	-	粘り強い堤防整備等の危機管理型ハード対策の検討・実施
36	-	利水ダム事前放流の実施や流域での雨水貯留機能の向上
37	-	水防拠点・河川防災ステーションの検討・調整及び整備の実施
38	-	水防資機材の搬入路の検討及び整備の実施
42	○	災害復旧のための自衛隊・水防団・報道機関との連携強化に資する取組
43	-	水害対応版BCP作成、企業に対する作成支援

①水害リスク情報等の更なる充実と自主防災意識の向上による安全な住民避難等の実践

■<11>コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの普及・促進

取組内容
(事例)

- **取組イメージ**: 紀宝町地区タイムラインの展開、マイ・タイムラインの作成支援
- **取組事例**: 紀宝町地区タイムライン、マイ・タイムライン講座

【紀宝町地区タイムラインの展開】

➢ 紀宝町では、高岡、成川、浅里、大里、鮎田の **5地区** **11自主防災組織にて、地区タイムラインを作成。**

(詳細は資料○)

【マイ・タイムラインの作成支援】

➢ 姫路河川国道事務所とたつの市が連携し、**気象予報士を講師に招いたマイ・タイムライン講座**を実施。(2021年10月16日)

紀宝町高岡地区における台風による風水害に備えた事前防災行動計画(タイムライン) ver210303

レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5		
目安時間 又は状況	台風接近 又は 上陸の3日前	台風接近 又は 上陸の2日~1日前	台風接近又は 上陸の1日~12時間前又は 暗くなるまでに	台風接近 又は 上陸の6時間前	0時間		
高岡水位			3.10m	3.84m	4.81m	7.80m	8.80m
緑故避難	・体調の確認 ・避難先へ連絡	・緑故避難の開始					
車中泊避難	【事前準備】 ・家族の台風対策の実施 ・非常持ち出し品、常用車の準備 ・家財・車両・農機具等の個人財産を守る準備 ・自宅周辺の排水溝や樋にゴミが詰まっているか等点検す	・体調の確認		・避難の実施			
避難所避難をする人 向清水 必要地区 避難の準備	・体調の確認 ・分岐避難の方法を決定 ・避難方法に応じた避難の準備 →非常持ち出し品を用意 →車中泊避難の準備 →備蓄品の用意	・体調の確認	・防災センターへの避難の実施	・避難の完了			
避難が難しい人 地区内 避難の準備	・体調の確認 ・分岐避難の方法を決定 ・避難方法に応じた避難の準備 →非常持ち出し品を用意 →車中泊避難の準備 →備蓄品の用意	・体調の確認	・家族の支援による防災センターへの避難の実施	・避難の完了			
体調不良者	・体調不良の場合、役場・自主防災会へ連絡	・体調不良の場合、役場・自主防災会へ連絡	・協定を結ぶ福祉避難所への家族の支援による避難の実施	・避難の完了			
自治会	・避難所備蓄品の確認	・地区の避難場所の開設と運営					
民生委員	・避難行動要支援者に注意喚起	・避難行動要支援者への避難所開設時刻の伝達	・避難行動要支援者の避難支援完了後、避難の実施				
消防団	・消防団出動	・地域内の状況把握と情報共有					退避
専門 操作員		・操作員待機	・避難の呼びかけ				退避
紀宝町役場	・町タイムライン発動開始について自主防災組織に連絡	・消防団出動要請	・福祉避難所への避難する避難行動要支援者の調整・支援 ・体調不良者を専用避難場所へ搬送	・避難の呼びかけ			

● 気象予報士を講師に招き、マイ・タイムライン講座を開催

○国土交通省姫路河川国道事務所と連携し「マイ・タイムライン講座」を開催

- 日 時: 令和3年10月16日(土) 10:00~12:00
 - 場 所: たつの市役所新館4F大会議室
 - 参加者: 一般市民 計39名
- 【次第】
1. 開会
 2. たつの市防災マップ等の説明
 3. マイ・タイムライン作成講座
 4. 閉会



気象予報士 酒井氏による説明

マイ・タイムライン作成の様子

【参加者の感想】

- ・マイ・タイムラインは事前防災に対して大変有効だと思った(50代男性)
- ・マイ・タイムラインを使うことで家族間で意志統一が出来、有効だと思った(70代男性)

コロナウイルス感染症対策を話し、スクール形式で講座を開催

新聞やTwitterなど複数のメディアと連携して、マイ・タイムライン講座を開催。

Twitterでの周知

取組を実施した効果、成果

◆ 逃げ遅れゼロに向け、避難判断のサポートツールとなるマイ・タイムラインの作成方法を住民に周知した。

出典: 第9回揖保川減災協議会 資料4

紀宝町地区タイムライン (例: 高岡)

マイ・タイムライン講座の様子
(姫路河川国道事務所、たつの市)

取組内容 (事例)

①水害リスク情報等の更なる充実と自主防災意識の向上による安全な住民避難等の実践

応用

■<11>コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの普及・促進

継続的に実施

- 取組イメージ: 紀宝町地区タイムラインの展開、マイ・タイムラインの作成支援
- 取組事例: 紀宝町地区タイムライン、マイ・タイムライン講座

初期目標(案)

達成(※)

未達成(※)

※: 状況は機関によって異なる

- コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの作成。



中期目標(案)

達成(※)

未達成(※)

- コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの普及・促進のための活動（出前講座、定期的な周知）



最終目標(案)

継続

- コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの普及・促進のための活動（出前講座、定期的な周知）の継続
- コミュニティタイムラインやマイ・タイムラインの住民への浸透
- 避難情報やタイミングの認知不足による「逃げ遅れゼロ」

①水害リスク情報等の更なる充実と自主防災意識の向上による安全な住民避難等の実践

取組内容
(事例)

■ <12> SNS等を活用したリスクコミュニケーションの検討

- **取組イメージ**: SNS等を活用した即時性の高い情報発信・共有・活用方策の検討
- **取組事例**: 和歌山県防災ナビ、紀南河川国道事務所Twitter、北山村LINE等

【和歌山県】

- **防災ナビ**には避難に役立つ様々な機能を搭載。
- **避難先検索**の他、**家族の居場所確認**や**避難トレーニング**なども可能。



(1) 避難先検索

- ・災害発生時に安全に避難するための避難場所を簡単に検索できます。
- ・避難場所の安全レベルも確認でき、最短ルートを地図上に表示します。
- ・避難途中でルートを変更した場合も現在地を常に表示して、正しいルートに誘導します。
- ・土地勘のない場所でも的確に避難できるよう、避難場所等の方向を地図情報とカメラで確認できます。(AR(拡張現実)を活用)

(2) 防災情報のプッシュ通知

- ・事前の登録なしで、気象警報・注意報や避難勧告等の防災情報がプッシュ型で届きます。
- ・さらに、一時避難場所から別の市町村に移動しても、その市町村に発令されている避難勧告等の情報がプッシュ型で届きます。

(3) 家族等が避難した場所の確認

- ・家族等でグループ登録すれば、てんでんこに避難した登録者の居場所を地図上で確認できます。
- ・また、避難カードの作成・共有ができます。

(4) 避難トレーニング

- ・自宅等から避難場所まで実際に避難のトレーニングをすることで、その避難経路や要した時間が記録できます。
- ・さらに、トレーニング記録に南海トラフ巨大地震の津波の到達時間等の想定を重ねることで避難行動の安全性を確認できます。

(5) 河川水位情報・土砂災害危険度情報

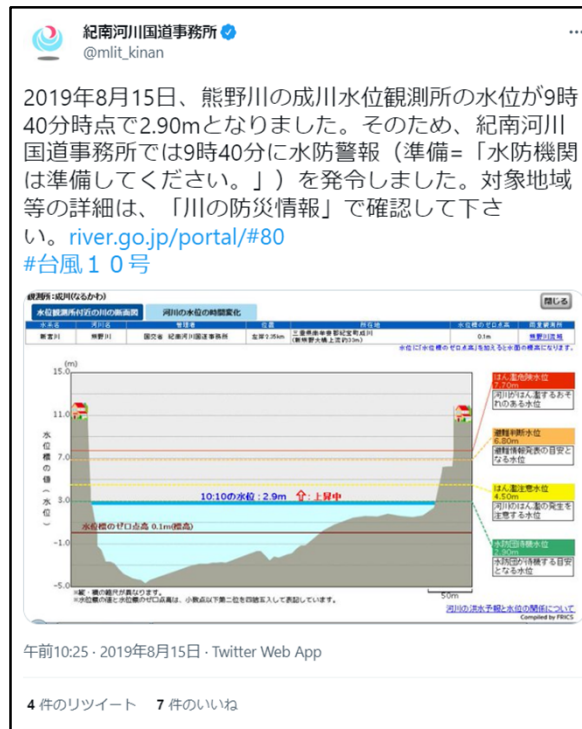
- ・河川水位や土砂災害危険度情報等をリアルタイムで表示し、現在地や自宅付近の河川水位情報や土砂災害の危険度が、「防災ナビ」から簡単操作で確認できます。

【紀南河川国道事務所】

- 事務所**Twitter**で**水防警報**、**洪水予報発信**時や**一定雨量以上等の雨量情報**等を提供。

【北山村】

- **LINE**を使い、北山村にお住まい、興味をお持ちの皆様に向けて、イベント情報や生活情報をお届け。



紀南河川国道事務所Twitter
(2019/8/15)



北山村役場 LINE

取組内容 (事例)

①水害リスク情報等の更なる充実と自主防災意識の向上による安全な住民避難等の実践

■<12> SNS等を活用したリスクコミュニケーションの検討

- 取組イメージ: SNS等を活用した即時性の高い情報発信・共有・活用方策の検討
- 取組事例: 和歌山県防災ナビ、紀南河川国道事務所Twitter、北山村LINE等

発展

継続的に実施

初期目標(案)

達成

- 行政機関、及び住民のインターネットリテラシーの浸透



中期目標(案)

達成

- SNS (Twitter、Facebook、LINE、Youtube等) 公式アカウントや、公式サイトの作成・情報発信
- オリジナルアプリの開発・公表・運用



最終目標(案)

継続

- 住民がSNS公式アカウントをフォロー/オリジナルアプリをインストールし、実際に活用
- 上記に対応した管理用サーバー等の確保、保守の継続

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■ <17>各管理者の情報を効果的に配信できる仕組みの必要性の確認と構築

取組内容 (事例)

- **取組イメージ**: 関係機関の減災に資する平時からの取組、洪水時の対応状況、水防資機材の状況等の情報を共有する必要性や仕組みの確認・構築
- **取組事例**: 大和川河川情報サイト(防災)

➤ 大和川河川事務所では、**関係自治体との洪水時の情報共有**を目的とした「河川情報共有サイト」、および**所内における災害対応支援**を目的とした「防災行動計画支援システム」を構築中。

総合情報 (マルチモニタ)

1. 河川概況監視 総合情報

- 現状の河川概況として、XRAIN、川の水位情報、河川カメラ、水位グラフのリアルタイムな情報が表示される。
- タブメニューを選択することで、対象情報を閲覧可能。外部サイト、外部システムの表示が可能。
- 初期表示では大阪府となる。「大阪府」「奈良県」の切り替えを行える。

CCTV

VIII. CCTV等監視機能

- カメラ画像を一覧表示させる。
- 表示させるカメラ種別は、CCTV（全地点、主要観測所地点、出張所管理区間別）と簡易型河川監視カメラ（全地点、危険箇所、出張所管理区間別）

支援システムイメージ

取組内容 (事例)

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■<17>各管理者の情報を効果的に配信できる仕組みの必要性の確認と構築

応用

継続的に実施

- **取組イメージ**: 関係機関の減災に資する平時からの取組、洪水時の対応状況、水防資機材の状況等の情報を共有する必要性や仕組みの確認・構築
- **取組事例**: 大和川河川情報サイト(防災)

初期目標(案)

未達成

- 出水対応について、**関係機関へのヒアリング** (近年の水害を踏まえた意見・要望など)
- 関係機関の**意見・要望の整理**

中期目標(案)

未達成(※)

※WEB会議は一部機関が状況に応じて実施中

- より密な連携を図るため、**汎用性の高い**アプリ (Microsoft Teams等) を使用した**WEB会議**の実施
- 現行の取組の精査 (必要な取組の強化、重要度の低い取組の優先順位下げ等)
- 関係機関の意見・要望を踏まえた対応案の検討

最終目標(案)※

未達成

※段階的目標の達成状況、意見・要望の内容に応じて、最終目標を変更する。

- 平常時、出水対応時の両方で利活用可能な**防災支援システム(仮)**の構築・運用
- <平常時イメージ>
- 出水時を想定した洪水対応訓練モード
- <出水対応時イメージ>
- 時々刻々と変化する状況に対応する情報を、効率的に取得できる機能の付与
例) 情報マルチモニタ、タイムライン(クロノロ)、河川カメラ一覧表示、ホットライン、水位ランキング表示等

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■ <18>雨量・水位・ダム放流情報等の一元化の検討

取組内容
(事例)

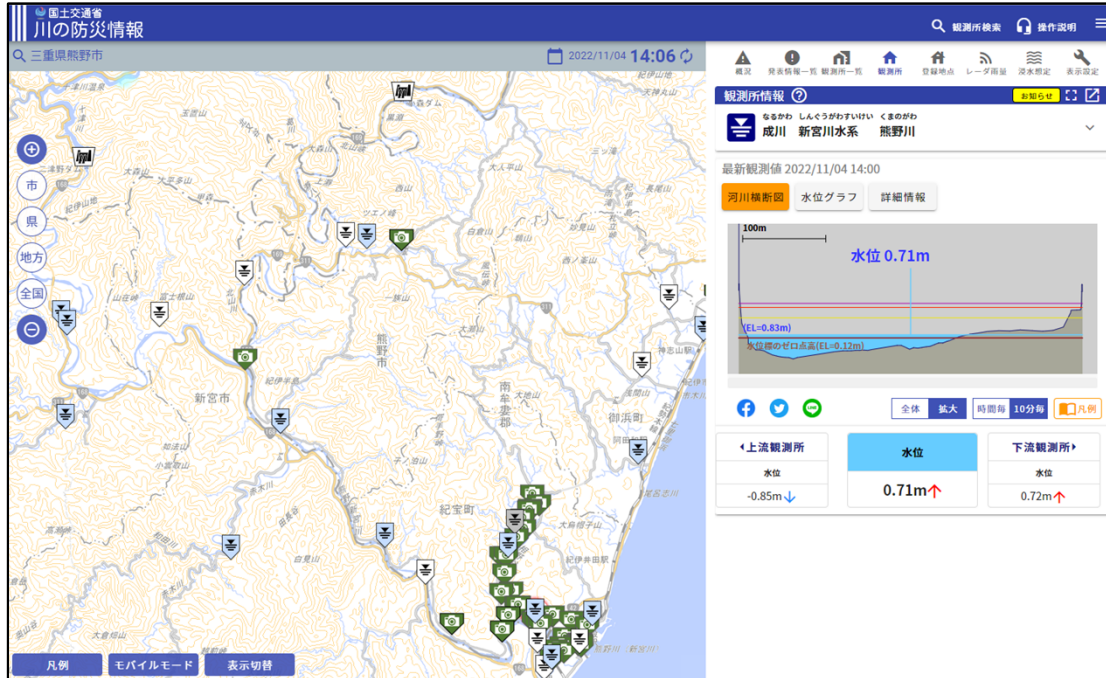
- **取組イメージ**:熊野川流域での雨量・水位・ダム放流等の一元化、各情報の効率的・実用的な活用方法の検討
- **取組事例①**:「川の防災情報」、気象庁ホームページ

【川の防災情報】

➤ **全国の川の水位**や**洪水予警報**、**レーダ雨量**、**河川カメラ画像**などをリアルタイムで提供。

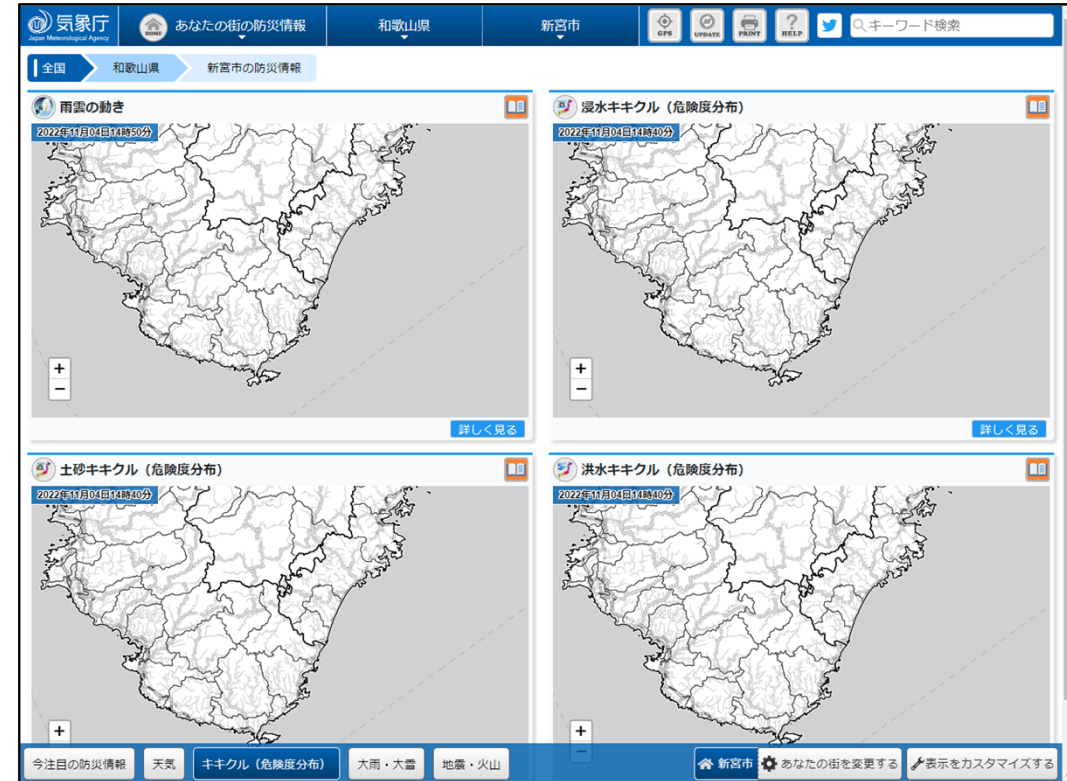
【気象庁HP】

➤ **雨雲の様子**や**キキクル**など、様々な防災気象情報が一つのページで見やすく確認できる。



川の防災情報

<https://www.river.go.jp/index>



気象庁HP (キキクル、雨雲の動き等)

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

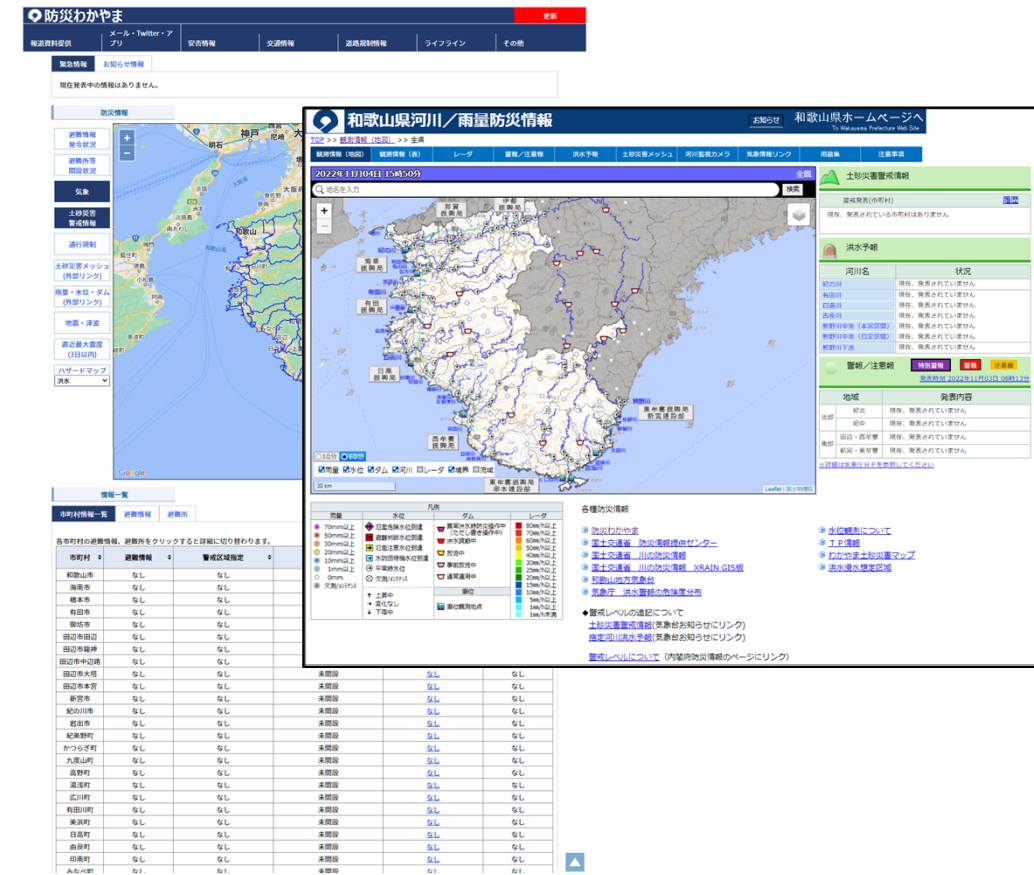
■ <18>雨量・水位・ダム放流情報等の一元化の検討

取組内容 (事例)

- **取組イメージ**:熊野川流域での雨量・水位・ダム放流等の一元化、各情報の効率的・実用的な活用方法の検討
- **取組事例②**:「防災わかやま(和歌山県河川/雨量防災情報)」、「紀宝町防災情報提供システム」

【防災わかやま】

- **避難情報発令状況、気象、土砂災害警戒情報、雨量・水位・ダム情報**などを網羅的に提供。

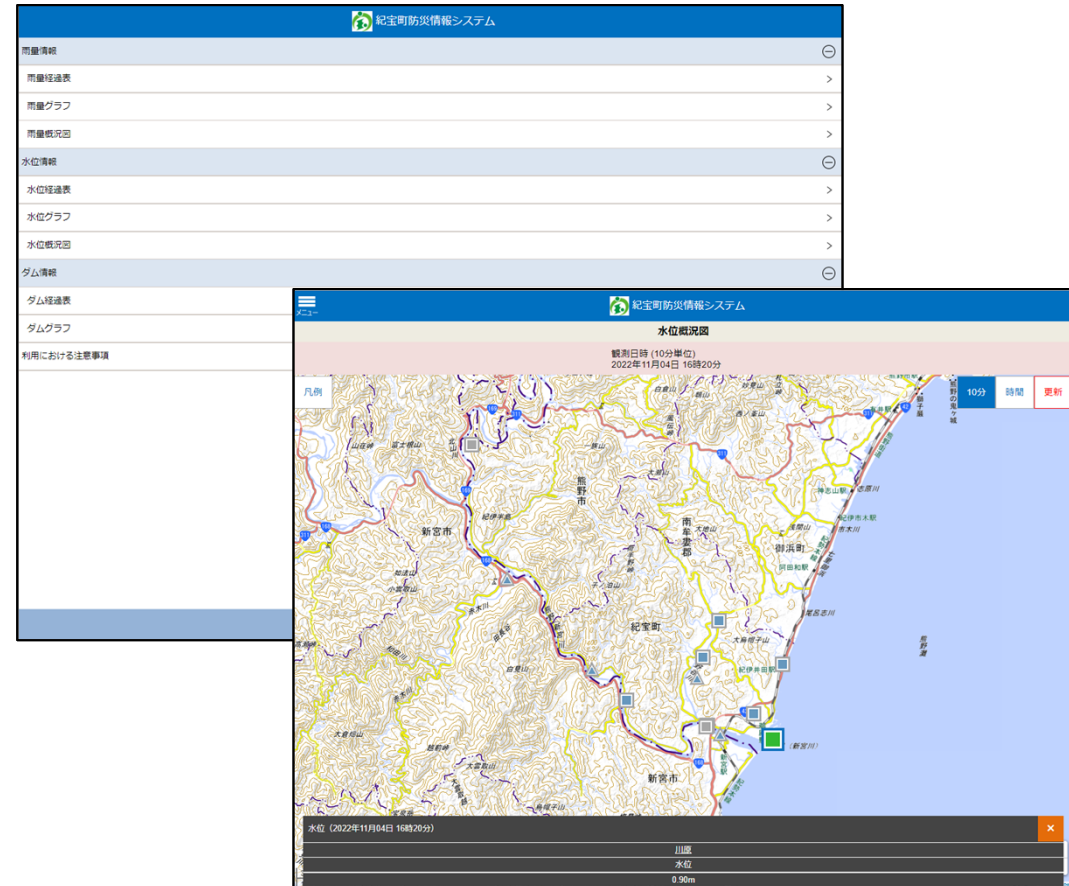


防災わかやま

https://bousai-wakayama.jp/dis_portal/

【紀宝町防災情報提供システム】

- パソコンやスマートフォンなどから町内に設置している**雨量計**や**水位計**、**ダムの放流状況**などのデータを確認することが可能。



紀宝町防災情報提供システム

<http://www.kasen.town.kiho.lg.jp/>

取組内容 (事例)

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

応用

■<18>雨量・水位・ダム放流情報等の一元化の検討

継続的に実施

- **取組イメージ**:熊野川流域での雨量・水位・ダム放流情報等の一元化、各情報の効率的・実用的な活用方法の検討
- **取組事例**:「川の防災情報」、気象庁ホームページ、「防災わかやま(和歌山県河川/雨量防災情報)」、「紀宝町防災情報提供システム」

初期目標(案)

達成

- 自機関が管理する雨量計、水位計、ダム情報等の取得、閲覧可能なWEBサイトの構築・利用
- もしくは「川の防災情報」、気象庁HPなどの活用



中期目標(案)

未達成

- 出水時における既存WEBサイトの活用状況を踏まえた課題の抽出や意見交換の実施
- 上記を踏まえた、雨量・水位・ダム放流情報等の効率的・実用的な活用方法の検討



最終目標(案)

未達成

- 水害リスクライン(国交省)×キキクル(気象庁)の統合等の、より効率的・実用的な改良の実施
- 気候変動、社会情勢に応じた定期的なWEBサイト、活用方法の見直し

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■<22>メディアとの連携による避難に資する河川情報提供の検討及び実践

取組内容 (事例)

- **取組イメージ**:メディアとの連携による切迫した河川情報の配信、呼びかけの工夫、『和歌山県域メディア協議会(仮称)』での取組検討・実践
- **取組事例**:兵庫県域メディア連携協議会

【兵庫県域メディア連携協議会】

- テレビやラジオ、新聞のそれぞれの**メディアが有する特性を活かし、地域のリスク情報や水害・土砂災害情報等について、住民の理解を促す**とともに、**災害時に避難行動につなげるための取組を関係者で連携して実施**する事を目的とする。



兵庫県域メディア連携協議会(第1回)の様子

切迫した河川情報の配信(「水害リスクライン」の機能や得られる情報等を共有)

⑨ 水害リスクラインによる地先毎の危険度情報の提供

地域のリスク情報を充実させるものとして、上流から下流まで連続して洪水危険度を把握し、水位の予測値を分かりやすく表示する「水害リスクライン」により地先毎の危険度情報を提供する。

現在の洪水予報・危険度の表示
一箇所に複数の観測所がある場合は、観測所ごとに洪水危険度を表示し、最も危険な観測所の危険度を地域全体の危険度として表示する。

水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示
河川の区間毎や氾濫ゾーン毎に洪水危険度を把握し、水位の予測値を分かりやすく表示する「水害リスクライン」により地先毎の危険度情報を提供する。

兵庫県域の取組(案)
○一般向けに提供を開始した「水害リスクライン」の機能や得られる危険度情報の見方等について情報共有し、メディア関係者と意見交換会(共同勉強会)を行い兵庫県全域の住民(視聴者等)に周知

水害リスクライン表示
加古川水系

観測所地点の水位変化を確認できる

平常時と現在のカメラを比較できる

全国での取組
○国が管理する全109水系で提供開始

洪水予報の充実
これまでの3時間先の水位予測に加え、最高水位やその内容を充実

洪水の危険度、切迫性をわかりやすく表示することで、住民の避難行動が促される

呼びかけの工夫 (報道時のカメラ原稿)

報道時のカメラ原稿について

- 災害報道時に使用するカメラについては、事前に読み原稿や解説を準備しておくことで、迅速かつ正確な報道ができるようになると思料。
- 作成にあたり、内容確認などの連携体制を構築していきたい。

板波(いたば) 左岸 37.6 km ★基準水位観測所

太平洋に注ぐ加古川の河口から37.6キロ上流にある国交省のカメラです。兵庫県中部に位置する西脇市高松町に設置されています。

左手が下流で画面手前が高松町、川を挟んで板波町です。

画面右にこの2つの地域を結ぶ板波橋があります。この場所は、野間川との合流地点です。画面に映っているのが水位観測所です。黄色ラインに達すると「氾濫注意水位」、赤色ラインに達すると「氾濫危険水位」になります。

現在、国交省などは〇〇〇〇を呼び掛けている。

この周辺は、田畑や牧場とともに民家が点在する地域です。

読売テレビ放送(株)提供

取組内容
(事例)

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■<22>メディアとの連携による避難に資する河川情報提供の検討及び実践

- **取組イメージ**:メディアとの連携による切迫した河川情報の配信、呼びかけの工夫、『和歌山県域メディア協議会(仮称)』での取組検討・実践
- **取組事例**:兵庫県域メディア連携協議会

初期目標(案)

未達成

- 熊野川・市田川・相野谷川の河川特性や、放送時に役立つ情報をまとめた資料作成。
- 住民の適切な防災行動につながる河川防災情報を発信するため、熊野川流域に関連するメディア機関へ連携の声掛け。



中期目標(案)

未達成

- 情報提供者(行政)および発信者(メディア機関・気象キャスター等)間で、表現内容の工夫や現状の課題等の意見交換を実施。(意見交換会・勉強会等)



最終目標(案)

未達成

- テレビやラジオ、新聞等のメディア機関との連携による、切迫した河川情報等の発信
- 住民の避難行動につながるように工夫した呼びかけの実施
- 和歌山県域メディア連携協議会での取組検討・実践

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■<23>リスク情報や治水事業効果の見える化

取組内容 (事例)

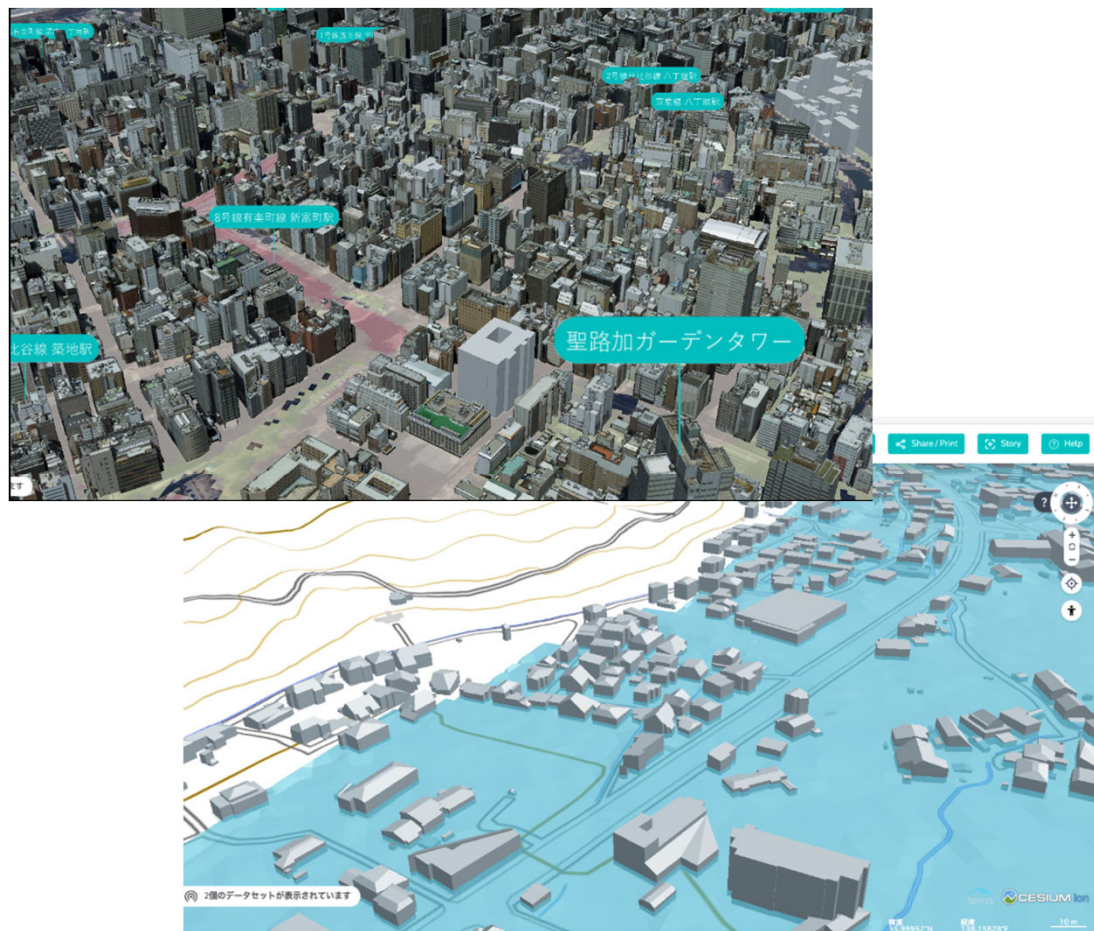
- **取組イメージ:** ハザードマップの3次元化、VR技術の活用
- **取組事例:** 国交省「Project PLATEAU(プラトー)」、東京都「TOKYO VIRTUAL HAZARD -風水害-」

【国交省「Project PLATEAU」】

- 全国各都市で洪水や津波の**浸水想定区域図を3D化**し、3D都市モデルに重ね合わせるリーディング・プロジェクト。

【東京都「TOKYO VIRTUAL HAZARD -風水害-」】

- 臨場感あふれる**VR動画で風水害の脅威を疑似体験**できるとともに、いざという時にとるべき行動なども学習できる。



PLATEAU (3Dハザードマップ)
<https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/disaster-management/2-001/>



東京都「TOKYO VIRTUAL HAZARD -風水害-」
<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1000217/1008164.html>

取組内容 (事例)

②情報の一元化や情報発信の見える化等による情報伝達体制の高度化・効率化

■<23>リスク情報や治水事業効果の見える化

発展

継続的に実施

- 取組イメージ: ハザードマップの3次元化、VR技術の活用
- 取組事例: 国交省「Project PLATEAU(プラトー)」、東京都「TOKYO VIRTUAL HAZARD -風水害-」

初期目標(案)

達成

- ハザードマップ(風水害、土砂災害、津波等)の作成・周知



中期目標(案)

達成

- ハザードマップの周知継続
- 災害リスク、治水事業効果等のさらなる周知のため、ハザードマップの3次元化、VR技術の活用の検討

未達成



最終目標(案)

未達成

- 熊野川水系の3次元ハザードマップの作成・普及
- VR技術の防災学習への活用

取組内容
(事例)

⑤生活再建、社会氾濫を一刻も早く回復させるための排水活動・復旧・復興の実現

■ <42> 災害復旧のための自衛隊・水防団・報道機関との連携強化に資する取組

- **取組イメージ**: 平時からの情報共有・連絡体制の確立、大規模災害発生を見据えた防災訓練等の実施
- **取組事例**: 近畿地方メディア連携協議会、熊野川総合水防演習

【近畿地方メディア連携協議会】

- 平成30年7月豪雨の被災を踏まえて発足。
- 国や自治体が発信する**水害・土砂災害等のハザード・リスク情報が、地域の人々自らの避難行動に結びつくよう、マスメディア等と連携し、情報提供・共有方法の充実に努める。**



近畿地方メディア連携協議会（第1回）の様子

■ 参加団体：17社（第5回協議会時点）

株式会社 朝日新聞社／朝日放送テレビ株式会社／大阪放送株式会社／関西テレビ放送株式会社／株式会社 神戸新聞社／株式会社 産業経済新聞社大阪本社／株式会社 奈良新聞社／株式会社 日刊建設工業新聞社／株式会社 日刊建設産業新聞社／株式会社 日刊建設通信新聞社／日本放送協会 大阪放送局／びわ湖放送株式会社／株式会社 福井新聞社／株式会社 毎日新聞社／株式会社 毎日放送／株式会社 読売新聞大阪本社／読売テレビ放送株式会社／

事務局：国土交通省近畿地方整備局河川部 水災害予報センター 河川計画課 河川管理課 気象庁大阪管区气象台

近畿地方メディア連携協議会

<https://www.kkr.mlit.go.jp/river/iinkaikatsudo/u/mediacooperation/index.html>

【熊野川総合水防演習】

- 紀伊半島大水害で得た教訓を未来に継承するため、当時被災した周辺**自治体や、気象台、自治会、ダム管理者、警察・消防、病院、要配慮者利用施設、報道機関等が参画**した訓練を実施。

令和4年度 熊野川総合水防演習

<https://www.kkr.mlit.go.jp/news/top/press/2022/20220422-2kumanogawa.html>

取組内容 (事例)

⑤生活再建、社会氾濫を一刻も早く回復させるための排水活動・復旧・復興の実現

応用

■<42>災害復旧のための自衛隊・水防団・報道機関との連携強化に資する取組

継続的に実施

- **取組イメージ**: 平時からの情報共有・連絡体制の確立、大規模災害発生を見据えた防災訓練等の実施
- **取組事例**: 近畿地方メディア連携協議会、熊野川総合水防演習

初期目標(案)

達成

- ホットラインの整備
- WEB会議ツールの普及
- 防災訓練の日程、関係機関調整

中期目標(案)

達成(※)

未達成(※)

※: 状況は機関によって異なる

- ホットラインの運用
- 危機感の共有のためのWEB会議、及び水位上昇時の連携WEB会議
- 自治体や、气象台、自治会、ダム管理者、警察・消防、病院、要配慮者利用施設、報道機関等が参画した防災訓練の実施
- 国・自治体が発信する水害・土砂災害等のハザード・リスク情報が、住民自らの避難行動に結びつくよう、メディア機関と連携した、情報提供・共有方法の充実

最終目標(案)

未達成

- 漏れのないホットライン/WEB会議の実施
- 自治体や、气象台、自治会、ダム管理者、警察・消防、病院、要配慮者利用施設、報道機関等が参画した防災訓練の継続
- メディア機関を通じた、住民へのハザード・リスク周知の徹底
- 避難情報、水害リスク把握等の、情報不足による被害者数ゼロ